



からしだね

キリストの受難

カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭: デニス・マックゴワン神父

住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ):

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/

2016年
4月号 (515号)



今村カトリック教会(福岡県三井郡大刀洗町)。教会の紹介文は9ページ。

巻頭言:キリスト者のアイデンティティ	2	解説:信徒総会と評議会のあり方は変わるか	7
4月ガラスケースの言葉	2	寄稿:アルファ・コースを終えて	8
デニス神父は協立温泉病院でリハビリへ	3	日曜学校、新年度の参加者募集	9
四旬節黙想会講話の概要と聴衆の感想	3	表紙の今村カトリック教会について	9
寄稿:四旬節黙想会に与って	4	黙想会のおしらせ、宝塚黙想の家から	9
3月6日多様な地区集会在持たれました	5	訂正とお詫び	9
新しい本が届きました	6		
中高生会の活動報告	7		

写真撮影: 栂場

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です。

完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

巻頭言

キリスト者のアイデンティティ — 洗礼の恵みを喜び祝おう

島 基幸神父

アレルヤ アレルヤ 主の復活 おめでとうございます。

いきなりですが、キリスト者のアイデンティティとは何でしょうか？すぐに答えられますか？思いつくのは、洗礼の恵みを受けた人と答えるのが一番手取り早いかもしれません。

「アイデンティティ」という言葉は、「(わたしはわたしである)自己同一」などの訳では日本語になじまないですが、私は誰であるか、わたしは何者なのかという問いに対する答えのことです。ある人にとっては、自明的なことで、いわゆる個人情報のこと、名前があり、住所があり、職業があり、学歴があり、家族と身体的特徴と血液型と趣味や性格などが分かればそれでその人が分かったような気になるかもしれません。でも、それらは社会的文化的なアイデンティティの基盤ですが、その人の人格が分かるわけではありません。その人の人格に影響を与えたことはあるかも知れませんが、大きく影響をあたえるのは出会いでしょう。私たちの生涯は、出会いに始まり出会いに終わる一生ともいえます。母親に出会ってから父親に、そして兄弟姉妹に、さらに世界は広がり、さまざまな人間環境、人間模様の中に投げ込まれ、もまれながら自分は誰で何を望むのかを模索しながらアイデンティティを獲得していくこととなります。そして、信仰者にとって、このアイデンティティの形成の中で、決定的なのは、「あなたはわたしを何者だと言うのか」という問いがペトロたちに投げかけられました。あなたにとってわたしはどのような存在なのか？ティベリウス湖畔では、イエスはペトロに「あなたはわたしを愛す

るか」と三度言われました。これらの問いは非常に個人的な直接的な質問です。「主よ、あなたは何もかもご存知です。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます(ヨハネ21:17)」。この答えは、ペトロの永遠のアイデンティティとなりました。

ある人にとっての特別な出会いやことばが、その人の一生を方向づける意義となり、そのために献身していきます。キリスト者にとっては、キリストの復活に与る洗礼によって生き生きとした希望を与えられることが(1ペトロ 1:3)、信じる者の存在的なアイデンティティ、キリスト者の人格、となるのです。

キリスト者にとっては、「生まれながらのキリスト者(Born Christian)」というのではないのです。聖アウグスティヌスは、「私たちはイースター(復活祭)のキリスト者、ハレルヤ(主に賛美)は私たちの歌」と洗礼の恵みを喜びましたが、それは「私と主との出会い」の時の喜び、つまり、「あなたはわたしを誰と言うのか」と問われて、「あなたはメシア、油注がれた救い主、イエス・キリスト」と告白して、その生涯をキリストの存在に明け渡し、「主の愛」、聖霊によって生かされる喜びに満たされた表現でした。

「いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか」(ルカ 15:32b)。私たちは御父の祝宴の喜びに与るアイデンティティを頂きました。

洗礼をうけられた皆さま おめでとうございます。
アレルヤ、主に賛美!!!

4月のガラスケースの言葉

主は私たちの祈りに心を留め、

すべての恐れを遠ざけて下さる。

詩編 34 の 5

デニス神父は協立温泉病院でリハビリ治療へ

デニス神父は1月に池田教会聖堂でミサ中に大腿部を骨折されて、池田市立病院に入院して接骨治療を受けておられました。デニス神父の姿が池田教会から消えて以来、入院治療の具合などについて多くの方々から様々な問い合わせやお見舞いの電話が池田教会や司祭チームに寄せられていましたが、デニス神父の市立病院からの退院が4月初め頃になる見通しとなったことをデニス神父の担当看護師から畠神父に伝えられました。

また、池田市立病院から退院後のリハビリ病院として協立温泉病院を紹介されたのを知った畠神父は3月14日に協立温泉病院を訪ねて、治療担当者からリハビリ治療の見通しを聞かれました。それによると、協立温泉病院におけるリハビリ治療はデニス神父が88歳という高齢のために3カ月間となり、その後も歩行のためには介護施設でリハビリ治療を続ける必要があるとのことです。

デニス神父ご自身は、リハビリ治療が協立温泉病院になるのを聞いて、これまでに幾度も病人を訪

問して院内が分かっているし、面会はほぼ自由であり、日生中央教会と池田教会の中間に位置するので両教会の信者さんとも交流できると喜んでおられたとのことです。池田市立病院病棟では、インフルエンザの流行期のために何方も訪問できない状態になっているのを大変悲しんでおられたようです。

今は、協立温泉病院へ転院とリハビリ治療が実現して、デニス神父が早く池田教会にもどられることをお祈りいたします。

大水恵一神父による四旬節黙想会

神のところに生きる - 今日という日を大切に

四旬節第3主日(2月28日)の大水恵一神父(コンベンツアル聖フランシスコ修道会・カトリック仁川教会)の第1講話と第2講話の概要を記し、参加した信徒のみなさんの感想を掲載します。 研修委員会

講話の概要 人はいつどのような形で神の許にいくのかは分かりません。死により、大切な人と別れなければならない時が突然くるかも知れない。だからこそ、「今」というこの時を大事に生きる。日々において、その中の一つひとつの営みを、これが最後になるかも知れないと考えると私たちは注意深く生きるでしょう。そういうことからすべての出来事は私たちにとって回心のチャンスがあることを伝えています。神様に心を向けて回心していくとそれが私たちにとって大きな生きる希望に変わります。「今」というこの時が神様の愛に満たされていることが分かってくるのではないかと思います。

今日というこの一日の中に神様から私たちにいろんなメッセージが送られていることでしょう。私たちはそのメッセージを見過ごすことなく、聞き逃すことなく、無関心にならずにしっかり受け留め応えていかなければいけないと思います。「今」という時間を互いに成長できるように、そして「今」という時間に神様からのいつくしみが注がれていることに感謝し過ごしていけますように。



講話を聴いたみなさんの感想

○映像はうすく見え辛く理解不十分です。ゴミサをたてられないほどの昨年事故に見舞われた神父様の苦しみ。その苦しみを受けられた神父様を近くに感じました。祈れないくらい苦しみをされた神父様。そのような祈れない状態の信徒を理解して下さる上で、たいへん尊敬いたします。いつも私たち苦しむ者の側でいてください。

○何が一番大切か気づかされるお話しでした。

○1日86400秒、今日という大切な日は神様からのプレゼント神様に会うことは人と会うとき、その人の中にイエス様を見る。イエス様の生き方に習うことが神のみ旨にかなうわかりやすく深い教えをいただきました。

○とてもわかりやすく大変良い黙想会でした。私も日常を見直し、大切に過ごしたいと思います。

○ふと立ち止まって今を考えようと感じました。

○いろいろ考え直す、見つめなおす良い機会でした。

○お話や絵本を通して、興味深いお話をきくことができました。一日を大切に生きていこうとあらためて思いました。今日を無駄に生きている自分を反省しました。また、日々出会う人々を大切にしていきたいです。神父様のユーモア、とてもよかったです。

○とてもわかりやすいお話でした。難しいおおきなことでなく、今、すぐできる小さなことを神様に捧げることで変わっていくことをビデオからも感じました。勇気が湧き、祈りの大切さも改めて感じました。ありがとうございました。

○ありがとうございました。

○「今日」という一日に感謝します。すべては自分の中にあるのだということ気付かせていただいた神様にこの上ない幸福を感じます。ただただ感謝です。

○第一講話のお話し(子孫、先祖様について)は昨日アルファ・コースでもちょうど話題になったところで、よくわかり、子供たちにもぴったりでした。大水神父様の昨年の苦しみはイエス様の十字架と結び付けられました。ほんとうにほんとうにお疲れ様でございました。いつ何が起こるか分からない一瞬を神様を感じイエス様の言葉として、今を大切に生きていきたいとお話を私たちに語られ、心にしみこんでいくようでした。ありがとうございました。

○映像にも助けられ、とてもわかりやすく大切なことを聞きました。子供たちが大人の黙想会に出るという初の試みでしたが、おかげさまで大成功だったと思います。頭でわかっているつもりでもなかなかそれを生きられませんか。昨日は過ぎ去り、明日はまだ。いまを大切にすることを心に刻みたいです。

寄稿 四旬節の黙想会に与って

H. K.

2月28日、大水恵一神父様ご指導による四旬節の黙想会にあずかりました。その2日前の2月26日に、私事ですが某大学の公開講座に参加し、「マインドフルネス」という心の整え方について学びました。この2つの講話を通して、特に黙想会で感じたことを書かせていただきます。

公開講座が開催される梅田キャンパスに行く途中、前日2月25日に起こった痛ましい事故現場を通りました。この地であつという間に、心の準備もないままにお二人の人生が終わってしまったことを悲しく思い、そこで静かに祈りました。講義では、現代は「あれもしなくては、これももしなくては！」の生活で、大切なことを見落としがちになっている。「doing(すること)中心の生活」は現代社会において避けることができないが、できるだけ「being(いること)を意識する時間」を1日5分でも作ることが大切、と学びました。

2月28日の大水神父様の黙想会ではまず、1年前、とても悲しくつらい事故を経験されたことを語られました。2月25日梅田で起こった事故のように、一瞬のうちに命が奪われ、悔いても思い返しても帰ってこない命。つらいつらい時期だったと思います。たぶん今も、そしてこれからもずっと心に持ち続けられると思います。

実は私の友も21年前の阪神大震災の直後、事故でなくなりました。ちょうどこの3月初めでした。震度7の激震地で助かった命でしたが、避難先で事故に会いました。彼女の死を目の当たりにして、何もできなかった自分を責め、長い間嘆き悲しみました。また自分の人生もどこで何が起きるのかわからないことを改めて思い知らされました。悔いのない(といってもどうがんばっても私の場合、悔いは残るとは思いますが笑)人生を送ろう。一瞬一瞬を大切にしよう、そう21年前に思っていたことを大水神父様のお話を聞いて改めて思いました。

今の私の教会での生活は、ミサのあと、あれをして、これをして、○○のためにあれをして、△△のためにあの日までこれをしなくては・・・という行動パターンになってしまっています。「すること」はもちろん大切ですが、「いること」の大切さをもっと感じたい。この世に命を与えられ、送られてきた自分が「いること」、この世に送ってくださった神様が「いること」、いのちを伝えてくれたご先祖が「いること」、そのなかにサムライも「いれば」お百姓さんも「いて」、実業家も「いて」、

職人さんも「いたこと」。それらの現存を忙しい時間の
中から少しでも黙想、観想する時間を作りたいと思
いました。これは無駄な時間の使い方では決まってい
ないと思います。

また、講話で紹介して下さった「善いことをするこ
とで善いことが連鎖し、自分に返ってくる」という話の動
画は都合上、善いことが自分に返ってくる時間が早
かったですが(笑)、実際はいつ、「自分のした善いこ
と」がどんな形で自分に返ってくるのかはだれも分か

らないでしょう。もしかして気が付かないかもしれない。
そんな時、心を静めて、整えて、神様の「いること」を
出会う人々から感じ、感謝して味わうことが大切だ
と思います。とはいっても私は気が短いのですぐにあきら
めるんです。そこが私の直さなくてはいけないところで
すね。大水神父様ありがとうございました。私もこれか
らもう一緒に笑って一緒にいてくれた友人を思いなが
ら、一日一日を大切に生きていきます。

3月6日に多様な地区集会在持たれました

3月6日に地区集会在一齊に開かれ、全地区
で98名が参加しました。5つの地区のすべてで今
年度の行事、役割分担、連絡事項などは茶菓子
をとりながら無事に行われました。その他、地区
集会在実施されたのは、実を上げられるになっ
た「みことばの分かち合い」、自己(近況)紹介、
地区内連絡の要・不要の確認、昼食、シニア向
けの健康体操や合唱などです。地区集会在の開催
頻度や信徒間の連絡方法を改善する要望が挙
がった地区もありました。各地区の報告は以下。

池田Ⅰ地区

出席者の殆どがシニアでその内訳は3組の夫婦
計6名とその他13名でした。世帯数の数(16)は連
絡先世帯38の42%に当たります。27年度委員の
赤井さんが当日の福音についての“分かち合い”を進
め、その後は28年度委員の本間さんが作られた復
活祭のパーティーなどの当番表案が承認されまし
た。委員が世話された昼食を食べた後は、29年度
委員の松下さん指導でシニア向けの体操と昭和の
歌を合唱して楽しみました。参加者の発言には、「昼
食のコスパが良かった」、「信徒なのに最近教会に
も地区集会在にも来られない方々との連絡方法がな
い」、などがありました。(大野)

池田Ⅱ地区

3月6日の地区集会在は23名の出席を得て、開
くことが出来ました。男性の参加者が今年2名
で、少し寂しく感じられました。最初にお祈りをして福
音の分かち合いを行いました。昨年と比べ、分か
ち合いの“やり方”がわかってきて、それぞれの方
の感じたこと、気づいたことを出席者みんな
で共有することができたような気がします。次に、ミ
サ奉仕者やブランチ、掃除の担当者決めを行いま
したが、みなさん積極的に引き受けて下さり、和
やかな雰囲気集会在を行うことができました。「今
度、食事をしなが

らの地区集会在もしましょう!」との声も聞かれ、地
区での集いをもつとできれば、と感じました。(本園)
川西地区

10:40から11:35までの1時間弱の集会在に20名
が参加しました。お菓子は満寿美堂のもちパイを
用意しました。わかち合いから始まり役割分
担もスムーズに決まりました。特に問題はあり
ませんでした。電話連絡網に於いては、信者
ではあるが、教会に來られてない方が、「連絡
はいらないので、外して下さい。」又は「連絡
はいらないが、残しておいてほしい。」と言
う方がおられるので、地区集会在の時に確
認しています。(高橋)

宝塚地区

年齢層の幅広く、有意義な分かち合いが
出来ました。お菓子、おにぎり、お茶をい
たきながら、役割分担を和気あいあい
に決めることが出来ました。参加者は
21名でした。(中川)

その他地区

参加人数は15名。今年参加人数(15名)
が少なく、お互いになかなか顔を
合わせる機会が少ないので、自己
紹介をしてから行事の確認を
しました。少ない時間のなかで、皆
さんの近況報告を聞いたり、今
後の集まりについて話をする事
ができました。(大川)

新しい本が届きました

「イチジクの木の下で」 上巻・下巻 山浦玄嗣著 (イー・ピックス)

「ガリラヤのイエシュー」と合わせて読む新約聖書四福音書の解説書。

「ユスト高山右近 いま降りていく人へ」 古巣 馨著 (ドン・ボスコ)

競い合う時代、あえて降りていく道をたどった右近。次代を模索する人たちが、今、また右近を追い求めている。

「天国の窓」 詩/晴佐久昌栄、写真/菅井日人 (サンパウロ)

ある朝、目覚めると窓があいていた。

「十字を切る」 晴佐久昌栄著 (女子パウロ会)

さあ、十字を切りましょう。クリスチャンがわが身に刻む十字の印。

「江戸のキリタン屋敷」 谷 真介著、三吉 達絵 (女子パウロ会)

「人は死ぬとき何を思うのか」 渡辺和子、大津秀一、石飛幸三、
青木新門、山折哲雄著 (PHP研究所)

命と向き合う達人たちが語る「後悔しない生」のかたちとは？

「聖書Q&A」和田幹男監著 (女子パウロ会)

「聖書を読んだ、ウーン、わからない」というあなたへ。

「ストレスから子どもを守る本」 富田富士也著 (PHP研究所)

子どもからの「サイン」を見逃していませんか？

「ちいさいこどものせいしよ」 ぶん/ロイス・ロック、え/ケイ・ウイブソン、
やく/かげやまあきこ (サンパウロ)

「最初の復活祭」 絵/クリスティーナ・カライ・ナギー、
文/ベサン・ジェームズ、訳/サンパウロ (サンパウロ)

イエスって だあれ？ 最初の復活祭って なあに？

以上の書物はカール記念館一階ホールに設けられた新着図書コーナーにあります。
研修委員会



中高生会の活動報告

ミサ後の聖書研究と 多彩な月一回のお泊り会 マイヤー

中高生会はミサ後の聖書研究会と月1回(第2週目)のお泊り会を基本に活動しています。

聖書研究会は今年は2人卒業した後、4人の新中学生を迎え17名で行う予定です。ルカの福音書を読み終え、今は創世記を勉強しています。分からないところは調べながら物語を読んでいます。今まで知らなかったことや誤解していたところ等が出てきて驚くことが度々あります。中高生は聖書の話をして今の自分の生活に当てはめたり、自分の気持ちと比べたりしながら、いろいろな感想を述べてくれます。中高生の貴重な意見を聞くことができ、毎回有意義な、そして楽しい時間です。

お泊り会は日曜学校のお泊り会と違って、食事は自分達で準備します。また日生中央の中高生も参加します。松本神父様のご指導のもと、勉強会と交流会を兼ねた一時を過ごします。

その他に3月の歓送迎会を兼ねたお泊り会、4月のタコ焼きパーティー、夏の日曜学校のキャンプのお手伝い、夏の夕涼み会、10月のバザーでのゲームコーナー担当、ハロウィンパーティーのお化け屋敷作り、12月の歳末助け合い募金への参加、クリスマス会での英語朗読等様々な活動を行います。また1年を通して、侍者をしたり、中高生と共に捧げるミサ等でミサ奉仕を行います。

これからの教会の成長にとって不可欠な若者が積極的に教会に関わり、教会を支えていってくれることを願って止みません。中高生会を卒業した若者が青年会を立ち上げ、活動を始めていることも希望の兆しです。今後とも中高生会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。



解説

評議会内規の改訂で信徒総会と 常設委員会のあり方が変わるか？

カトリック池田教会には国であれば憲法にあたる評議会規約と国の法律にあたる評議会内規が在りますが、昨年(2015)の11月に信徒総会運営内規の第3条(評議会から信徒総会への提出案件)が変わり、本年(2016)の2・3月に役員・委員会の組織・活動に関する内規の1条(常設委員会名)と5条(委員会の活動内容)が変更され、新たに6条(委員会の活動目的)が加わりました。新評議会体制になって10年目に信徒総会と評議会の常設委員会のあり方に変化が生まれ、常設委員会に青少年育成委員会が誕生しました。新委員会の誕生については「からしだね」本号の9ページにあるように、6月に予定されている信徒総会でその説明が予定されているのでここではそれ以外の信徒総会と委員会についての内規の改訂に絞って、その改訂の目的について評議会に提出された改訂理由を基にしてその信徒総会と委員会活動への影響を解説します。

信徒総会運営内規の第3条の改定は、評議会規定の第8条(信徒総会)の第1項において、「評議会は、(中略)、年間の活動及び会計報告をし、信徒への周知を図るとともに、自由に意見を述べる機会を提供します。」とありますが運営内規の第3条、総会への提出案件、①報告事項には“年間の活動報告”が何故か欠落していたので、それを明示して誤解を解くために改訂されました。従来(2015年度)の信徒総会では、新しい評議会がその年度の活動方針を表明してきましたが、活動方針に取り上げられたのは前年度までの評議会活動の成果が見えた活動を一層の成果を期して継続・発展させる活動、成果が見えないので異なる形の活動のよって目的を成し遂げられそうな活動、あるいは、社会や教会共同体の時代的な変化によって顕在化してきた新たな目標のための新しい活動、のいずれかです。前年度の評議会が自らの活動によって目標とした成果が挙げられたのかどうかを報告するならば、当年度の活動方針 - 目標設定と活動方法の選択、を考えるのに新しい評議会と信徒のみなさんは重要な情報を得ることになるはず(2015年度)の評議会は、評議会内規に明記されている活動の目的が年間の評議会活動によって果たされたのかどうかを直截に報告するのが信徒総会を開く目的の一つであると受け取って、年間に行った評議会

の活動によって成果があったかどうかを報告しなければならぬと考えたのでしょう。

ところで、前年度の評議会は評議を起し、活動方針を決める評議会議長などの役員と具体的な活動を行う常設委員会から構成されています。各委員会は評議会全体の目的の一部を活動の目的としているのですが、委員会の組織・活動に関する内規の第6条に各委員会が分担する活動の目標を記し、各常設委員会は行った活動を単に「実行した」とするだけでなく、「その成果を自己評価して報告する」のを各委員会に義務付けたのです。

各常設委員会の活動目標を明示することは、その日常的な活動の意義が何時も、全体としての目標の中で位置づけられて活動しやすくなります。他方の「報告にはその活動成果を含む」としたので、成果を出さねばならないという責任感を常設委員会は意識するようになります。評議して活動方針を決定した評議会議長・副議長などの役員は、委員会の活動報告が無成果であった場合には、評議会の活動方針や活動の委員会による分担を再検討をする協議をしなければならなくなります。そのような意味で、評議会役員は委員会とは異なるレベルでの評議会としての責任を意識されているのでしょう。

忙しい日常生活と教会共同体の生活の両方で信仰と希望の鮮度を保ち続けるのは決して容易でなく、個人的にはミサなどにおける黙想がより一層意義ある機会としなければならぬし、教会共同体にあつては「みことばの分かち合い」の機会に信者相互の分かち合いを行う意義が大きいことに気が付きます。社会生活と教会共同体生活が多忙になればなるほど、深い次元で確かめたいのは主の現存と共同体の相互の現存です。司牧チームが提唱してきたセブンスステップス法による「みことばの分かち合い」が実をつけ始めたのはうれしいことです。

寄稿 アルファ・コースを終えて

橋口幹(第8期受講者)

『求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。』(マタイ 7章7節) マタイによる福音書の言葉ですが、今思えば私が池田教会へ行きアルファ・コースと出会った導きの言葉でした。

1回目の受講の時は、緊張して池田教会へ向かった記憶も未だに覚えています。右も左も分からない自分がアルファ・コースを受講し続ける事ができる

のか? など、受講日当日まで不安でいっぱいでした。そのような不安を無くしてくれたのは、松下さんが笑顔で出迎えてくれて、私の聖母マリア様への気持ちを覚えてくれて、カール記念館にあるマリア像にライトを照らしてくれていた事



で、私の緊張は知らない間に消えていました。受講の回を重ねる内に、アルファ・コースを受講する毎週土曜日は楽しく、教会へアルファ・コースの受講、主日のミサへ参加する事は、いつの間にか生活の一部となりました。途中で私の入院や手術で受講を休んだり、アルファ・コースの夏休みや冬休みがあり、その時は「受講できない!」と寂しさを感じたのも今では良い思い出です。冬休み後のアルファ・コース内でも「あと数回で8期のコースが終了になる」という言葉が出始めると私の心のどこかで受講が終わってほしくない...と思うようになりました。

今まで卒園や卒業を何度も経験して、そのような感覚はなかったのですが、アルファ・コースだけは、続けたい気持ちでいっぱいでした。このような気持ちになったのは、いつも笑顔で迎えてくれる松下さん夫婦や村嶋さんやヘルパーさんがアルファ・コースを受講しやすい環境を作ってくれたおかげだと思います。また、他の受講生の方達とも仲良くなり、充実した日々を過ごす事ができました。私にとってアルファ・コースとはキリスト教への扉までの道案内でした。池田教会に行きアルファ・コースを受講するまで私の心はどこか渴いていたのでしょう。

キリスト教の扉までの道のりは、アルファ・コースを受講することで、私の心は恵みという形で潤う事ができました。アルファ・コースのおかげで、様々な方との出会いも恵みの一つで私の心は潤いました。キリスト教の扉までの道のりは、父なる神の恵みだと気づき、私は3月26日にキリスト教の扉を開く決意をしました。神様から受けた恵みを、自分のものだけじゃなく、今度は人に与える側にならないといけません。この先もアルファ・コースが池田教会で続く限り、今度は受講生をサポートする側になり、受けた恵みを与えていきたいと思えます。

日曜学校、新年度参加者を募集

日曜学校では新しい入学者を募集しています。対象者は、幼稚園の年中から小学生と中学生、高校生です。日曜学校で一緒に聖書を読んだり、祈ったり、歌ったり、遊んだりしませんか？洗礼を受けている、受けていないは問いません。

また、初聖体準備クラスは2年生を対象にしていますが、それ以上の年齢でまだ初聖体を受けておらず、希望されるお子さんももちろん参加可能です。新しい仲間参加を、心待ちにしています。どうぞまわりのお子さんをお誘いください。

お泊まり会も月に1度あります。小学生は第四週目の土曜日、中高生は第二週目の土曜日です。

ご相談、問い合わせは日曜学校サポーターまでお願いします。

青少年育成委員会*

* 2月評議会議事録にあったように青少年育成委員会が2月に発足しましたが、その新委員会の詳細の説明は信徒総会における「2015年度の評議会報告」で行う予定です。

黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家から

■ 日帰り黙想会

4月21日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父

4月22日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父

■ 週末黙想会

4月23日(土) 17:00 ~ 25日(日) 15:30

指導: 山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」(☎0797(84)3111)まで。



訂正とお詫び

からしだね2月号の2ページの巻頭言の第5段落にある名前の一文字が2ヶ所で間違っております。訂正してお詫びいたします。

誤) 船越 → 正) 舟越

広報委員会

編集後記

地区集会が行われた。池田Ⅱ地区は大所帯である。しかし見渡したところ、私を含め、出席者はだんぜん高齢者が多かった。役割分担が議題に上がったが、実際に機敏に働けるメンバーは少ない。数年先の地区委員候補と言われても、年寄りはとても請け合えない。出席した数少ない若手のメンバーが積極的に名乗りを上げて、次々と仕事を引き受けてくださった。高齢者は申し訳ないと思っただけだ。ものすごい勢いで池田教会信徒の高齢化が進んでいるのを、改めて実感した。

ソフィー

表紙の今村カトリック教会について

今村カトリック教会は福岡市の東南の三井郡大刀洗町今707に在り、日本でも有数の煉瓦造建築である。大正12年建設、設計施工は教会建築の名手鉄川与助である。なお、カトリックの教会は、現在「カトリック〇〇教会」となっているのが一般的ですが、表紙の教会名は、現地での表札のままに表示しました。

栂場